

ミドルリーダーの実践と育成支援

大学・学校・教育委員会のコラボレーション

大阪教育大学・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会合同プロジェクト
組織協力 福井大学教職大学院、鳴門教育大学教職大学院

日時 2014(平成26)年11月22日(土)

場所 大阪教育大学 天王寺キャンパス

形態 ラウンドテーブル型(語りと傾聴による学び合い)

プログラム (敬称略)

第一部 ▶▶▶ 10:30-12:40

場所 ミレニアムホール

司会 川口 賢志(大阪府教育委員会)

10:30 開会あいさつ
越桐 國雄(大阪教育大学理事・副学長)
津田 仁(大阪府教育委員会教育監)
沼守 誠也(大阪市教育委員会教育次長)

10:45 基調講演
教師の成長とその条件
油布 佐和子
(早稲田大学 教育・総合科学学術院教授)

11:45 休憩

11:55 学校現場からの発信
次世代の教育の構築を目指して
一協働的な校内システムと授業の転換—
宮岡 愛子(大阪市立玉出小学校副校長)
教員の力を引き出す
一教員の育成は実践テーマづくりから—
寺野 雅之(大阪府立茨田高等学校校長)

12:25 ピアノ・チェロの共演
田中 紘二(大阪教育大学名誉教授)
大木 愛一(大阪教育大学教授)

12:40 昼食・休憩

第二部 ▶▶▶ 13:40-17:30

場所 214・215教室

司会 三枝 由佳里(大阪市教育委員会) 説明 仲村顕臣、三枝由佳里

13:40 ラウンドテーブル
ミドルリーダーの実践と育成支援
一語り・聴く学習コミュニティ—
大阪府教職員、大阪市教職員、
大阪教育大学夜間大学院生、福井大学教職大学院生、
鳴門教育大学教職大学院生 他
各グループ6人編成で、報告者2名(報告40分+話し合い
30分)が学校づくりの実践を物語り、参加者が傾聴し、協
同的に実践を省察します。時間配分(180分):司会者発題・
自己紹介20、報告A70、休憩10、報告B70、まとめ10

16:40 休憩

16:55 総括講演
ミドルリーダーへの期待
一現在から未来へ—
武井 敦史(静岡大学教職大学院教授)

17:25 閉会あいさつ
大脇 康弘(大阪教育大学)

17:30 終了

*交流会 18:00より天王寺駅近くで開催

大会概要

日時 2014(平成26)年11月22日(土) 10:30~17:30 (開場は10:00)

場所 大阪教育大学 天王寺キャンパス ミレニアムホール、
214・215教室 他

対象者 スクールリーダー:大阪府内の学校・教育委員会に勤務する教職員、
行政職員、および大学研究者

定員 84名(インターネット事前申込制)

参加費 無料

アクセス 大阪教育大学 天王寺キャンパス
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88
TEL(06)6775-6611
JR天王寺駅・地下鉄天王寺駅・近鉄大阪阿部野橋駅下車、約650m
JR寺田町駅下車、約400m

申込方法

1. インターネット申込

大阪教育大学HPIにて10月下旬にご案内します。
そのHP上から次の事項を記入して、申し込みください。

- 名前、勤務校・機関、職位、電話番号、E-mailアドレス
- 自己紹介文(200字程度)
- その他

2. 申込締切日 2014(平成26)年11月13日(木)必着

3. 参加の可否

申込受付後10日以内にE-mailにて参加の可否をご連絡します。定員に達し
次第、締め切らせていただきます。参加者はこの冊子で事前学習してください。

4. 問い合わせ先

大阪教育大学 学務部天王寺地区管理課 総務係
E-mail : yakan@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

ミドルリーダーの実践と育成支援

—理論知と実践知の対話—

第14回スクールリーダー・フォーラムの趣旨

スクールリーダー・フォーラム(SLF)は、スクールリーダーの「学びの場」を創り出す取り組みです。このフォーラムは大阪教育大学と大阪府教育委員会および大阪市教育委員会の合同プロジェクトとして開催します。加えて、福井大学教職大学院、鳴門教育大学教職大学院の組織協力を得ています。

第14回フォーラムは、ミドルリーダーの実践とその育成がテーマです。ラウンドテーブルでは次の4種類の内容が報告されます。

- ①ミドルリーダーの学校づくり実践(校内研究、生徒指導、組織づくり等)、②校長・教頭のミドルリーダー育成の取組、③教育委員会・教育センターのミドルリーダー研修、育成支援事業、④大学教員の学校現場と連携した実践

ミドルリーダーを核にした多様な実践について、語り聴く活動を通して参加者の交流を図ります。基調講演では教師の成長と条件について問題提起され、総括講演ではミドルリーダーの在り方についてまとめていただきます。これらを通して、学校づくりの現状と未来を考えていきたいと思います。また、第一部の後半には、昨年に続いてピアノとチェロの共演があります。

このフォーラムでいうスクールリーダーは「学校づくりの中核を担う教職員」で、校長、教頭、主幹教諭(首席)、指導教諭、主要な主任、事務長などを含みます。ミドルリーダーは「学校づくりを最前線で担うチームリーダー」でプレーヤーとマネージャーの役割を併せて担います。首席・指導教諭、教務主任・研究主任・生徒指導主事・進路指導主事、学年主任(中・高)などを含みます。

このフォーラムでは、スクールリーダー、指導主事、大学教員が一堂に会して、実践を交流していきます。属性やキャリアが異なる参加者が主役となり、ラウンドテーブルではそれぞれの役割を担っていただきます。充実したフォーラムを作り上げていきましょう。

ラウンドテーブルの報告者・関係者(敬称略)

① ラウンドテーブルの報告者

大阪府教職員: 木谷秀次(懐風館高校 校長) 大石賢一(生野高校 教頭) 大西英之(吹田高校 首席) 大角正弘(箕面支援学校 校長) 吉田純子(東大阪支援学校 教頭) 吉田 実(とりかい高等支援学校 首席)

大阪市教職員: 宮原勝己(小林小学校 教頭) 石田勝紀(生江小学校 教諭) 中山隆史(諏訪小学校 教諭) 藤井 徹(鶴見橋中学校 校長) 文田英之(本庄中学校 校長) 吉岡雄一郎(夕陽丘中学校 教諭)

大阪教育大学夜間大学院生 他: 松村晃男(東大阪市立鴻池東小学校 指導教諭) 真島克宣(茨木市立平田中学校 教諭) 松山康成(寝屋川市立東小学校 教諭) 岡田千鶴(大阪医療看護専門学校 副校長) ・大学教員 水野治久(大阪教育大学 教授) ・教育委員会 赤石美保子(大阪市 総括指導主事) 井原啓裕(柏原市 指導主事) 小田恵美子(豊能町 指導主事) 尾崎眞弓(伊丹市 指導主事)

福井大学教職大学院生 他: 石崎隆幸(あわら市芦原中学校 教諭) 金子 奨(埼玉県立新座高校 教諭) 谷 康博(福井県立敦賀工業高校 教諭) 野尻友佳子(福井県立藤島高校 教諭) ・大学教員 半原芳子(福井大学 特命助教)

鳴門教育大学教職大学院生: 友安敏博(愛媛県四国中央市立松柏小学校 教諭) 山下克也(徳島県阿波市立久勝小学校 教諭) 小倉 整(三重県鈴鹿市立神戸中学校 教諭)

岡山大学教職大学院: 久松満里子(岡山県立井原高校 主幹教諭)

兵庫教育大学教職大学院(修了): 棚野勝文(兵庫県立神戸北高校 教頭)

東京学芸大学教職大学院: 佐藤将宏(東京都荒川区立第五峯田小学校 教諭)

② ラウンドテーブルの関係者

大阪府教員委員会・大阪府教育センター: 浅田充彦、實田康彦、伊藤藤子、片山 造、佐藤誠治、川口賢志、藤井貞彦、酒井保典

大阪市教員委員会・大阪市教育センター: 山野敏和、仲村顕臣、三枝由佳里、茨木久治、赤石美保子、北本義章

大阪教育大学大学院: 大脇康弘、林 龍平、水野治久、瀬戸口昌也、秋吉博之、恩知忠司、八田幸恵、吉田茂孝、牧 郁子、森 均、深野康久

福井大学教職大学院: 森 透、木村 優、藤井佑介、半原芳子

鳴門教育大学教職大学院: 阿形恒秀、前田洋一、大林正史

早稲田大学: 油布佐和子、**静岡大学:** 武井敦史、**東京学芸大学:** 福本みちよ 他

フォーラム講演者 PROFILE

早稲田大学 教育・総合科学学術院教授

油布 佐和子 (Yufu, Sawako)

教職研究科で教師論を担当。専門は教育社会学。教職の社会学的研究に従事。日本教育社会学会理事、日本教師教育学会理事、中教審教員養成部会委員。編著書論文に『転換期の教師』(放送大学)、『教師という仕事』(日本図書センター)、『教師の成長と教員評価』 荻谷・金子編『教員評価の社会学』(岩波書店)、『教師に何がおこっているか?』北沢編『教育を社会学する』(学文社)など。

フォーラム講演者 PROFILE

静岡大学 大学院教育学研究科教授

武井 敦史 (Takei, Atsushi)

専門は教育経営学、比較教育学。兵庫教育大学准教授(～2010) 米国サンディエゴ大学客員研究員(2008)、リッチモンド大学客員研究員(2009)、京都大学非常勤講師(2012)、インド・デリー大学客員講師(2014)等を歴任。研修講師、委員等多数。近年は学校組織と「場」の理論に研究活動を傾注。著書『学校づくりの組織論』他。2014年度より月刊誌『教職研修』に「できるミドルリーダーの〈仕事術〉」を連載中。

ピアノとチェロの共演
「今、命を見つめる音の世界」

出演者
田中 紘二(ピアノ)
大木 愛一(チェロ)

時間の経過の中で、生まれては消え消えては生まれる不思議な音の世界～そのクラシック音楽名曲の響きを通して、今を生きる喜びや悲しみそして未来への希望に想いを寄せ演奏したいと願っています。
演奏曲目はお楽しみに♪

ラウンドテーブルの取組指針

—実践を語り・聴く—

スクールリーダー・フォーラム事務局

ラウンドテーブルとは

ラウンドテーブル (RT) は、6人程度の少人数グループに分かれて、語りと傾聴によって学び合う学習方法です。円形になってお互いに顔が見える関係で、報告者は「ミドルリーダーに関わる実践」についてじっくり物語り (narrative)、参加者は報告者の実践の展開を文脈に沿って受け止め共有していく中で、協同して実践を省察していきます。今回のテーマは、ミドルリーダーの学校づくり実践と校長・教頭などによるミドルリーダーを育成支援する取り組みとが交錯するものです。

報告者はミドルリーダーに関わる実践を記録・資料を手がかりに時間をかけて語ります。実践の期間は1校で1年から数年にわたります。参加者は、報告者が事例やエピソードを交えて語る展開に耳を傾け、活動の場面を共有し、報告者に寄り添う形で質問し、実践を深く理解しようとします。ファシリテーター (司会) は、この学び合う関係が形成されるよう適切な支援と働きかけを行います。こうして、報告者と参加者が共に実践を省察し探究をすすめていきます。

このラウンドテーブルには次の四つの特長があります。

第一に、報告者はじっくり時間をかけて自分の実践を物語る貴重な機会を得られます。

第二に、参加者は少人数のグループで報告者の実践の展開を確かに受け止めていきます。時には、参加者が報告者に率直な問いかけを行い、問題を深める契機を作ることもあります。

第三に、多様な属性・キャリアをもつ人々が集まって聴き合うことから、報告者は内容のテーマ・構成について個別性と一般性を意識して、伝える工夫をします。ミドルリーダーに関わる実践は個別具体的で特定の社会的文脈の中で行われていますが、それを異なる属性・キャリアを持つ人にもわかるように伝えていくことが必要です。その作業を通して、自分たちの実践をパブリックな仕事として位置づけ直すことになります。

第四に、異なる属性・キャリアの人々に物語り話し合う体験を通して、報告者には気づきや発見、新たな問いが生まれ、それが自分の実践を再構成する契機になります。

こうしてラウンドテーブル参加者は、「語り・聴く関係」を基礎とした「学習コミュニティ」を形成していきます。それは、報告者の実践—省察—再構成の学習サイクルを支える土台となります。

1 全体の概要

①グループメンバー 6名 (14グループを予定)

- ・異なる校種・職位などを組み合わせてグループ構成する。
- ・報告者スクールリーダー2、大阪教育大学・福井大学・鳴門教育大学1、大阪府教育委員会・大阪市教育委員会1、フォーラム申込者2

②役割分担:司会1、報告2、タイムキーパー (時間調整役) 1、書記 (レポート作成) 1

書記は、討議の内容を簡潔に整理すると共に、自分の感想をまとめたレポートを作成し、終了後14日以内にフォーラム事務局に送付する (A4判40字×50行で1~2頁)。

③時間配分 180分:司会者発題・自己紹介 20、報告 A70、休憩 10、報告 B70、まとめ 10

一人当たり70分 (報告40+話し合い30)

④グループ、役割などはフォーラム当日に発表

⑤報告者の課題

a. フォーラム報告書の掲載原稿

書式 A4版横書 40字×50行 2枚、10p (ポイント)MS明朝、余白上下25mm、左右30mm

題目は11p MSゴシック太字、節題は10p MSゴシック太字、ファイル名「SLF14-3 名前 20140820」

b. フォーラム当日の配布レジュメ (枚数自由) 10部、内3部は受付に提出

c. 提示する資料など

2 報告「ミドルリーダーの実践と育成支援」の組み立て

① 基本要件

- ①報告のテーマ、コンセプトとストーリーを明確にしてください。
- ②ミドルリーダーに関わる実践をリアルに語ることで、自己の役割・活動を明確にすることが大事です。また、実践の一般化、応用可能性についても触れることが望ましいが、概念や枠組みを当てはめるのではなく、実践的知見をまとめてください。
- ③事例やエピソードを盛り込む、資料を提示する（静止画、ipad 使用は可）など、メンバーにアピールするよう工夫してください。
- ④事前に語りを練習してみましょう。それで時間配分の調整を行いましょう。
- ⑤報告者は、レジュメの作成（原稿作成も可）、語りを通して、自らの実践を整理していきます。実践者として貴重な財産を得ることになります。
- ⑥当日は報告書原稿・配布資料を基に自由に語ってください。話を膨らませたりカットしたりすることも OK です。メンバーとの話し合いを通して気づきや発見、新たな問いに出会えます。
- ⑦当日の報告では、パワーポイント等は使用できません（配布資料 ppt. は可）。また、提示する資料は、下記②の内容構成に従ったもので、精選してください。資料を読み上げる報告ではなく、資料を示しながらも学校の状況、取り組みや変容過程を「語る」ことに重点を置いてください。なお、参考資料は、話し合いの時間に配布してください。
- ⑧ミドルリーダーに関わる実践を振り返り理論的に整理すれば何が言えるのか、また、その経験から学んだことや気づいたことも述べてください。

② 内容構成について

内容構成は、コンセプトとストーリーをふまえて自由に構成します。

*全体を5つ程度に分節化し、題目、節題を工夫しましょう。次の項目は入れてください。

- ・プロフィール：教職経験年数、勤務校数、現任校での勤務年数、職位・役割

- ・学校の特性：生徒数・クラス数、教員数、教員の年齢構成、教員集団の特徴、地域特性
- ・学校づくりの特徴と過程（学校づくりの組織体制や組織的な動き）、成果と課題（教育活動の改善、教職員や児童生徒の変容など）
- ・ミドルリーダーに関わる実践の省察（学校づくりの過程で自分が果たした役割・行動、それらの意味や課題、その過程で何を学んだかなど）

3 当日の取り運び

① 場所、形態など

- ・場所 中央館 214・215 教室
- ・机といすの配置 円卓型
- ・当日の配布資料で、グループ名、役割を確認してください。

② 主な役割について

- ①**報告者**は、フォーラム報告書のレポートを基に、じっくり語ります。報告者は振り返り、物語り、話し合う過程でミドルリーダーに関わる実践を整理し、新たな課題が見えてきます。
- ②**参加者**は、報告者の語りを傾聴しその内容を深めたり広げたりするために、問いかけ、話題提供し、話し合いに参画します。この冊子の論稿を読んで、「ミドルリーダーの実践と育成」について事前学習してください。
- ③**司会者**は、ファシリテーターとして、メンバーの学び合いが深まるよう適切な方向付け、問題整理、助言を行います。司会者は RT の運営と今日のねらいを確認して下さい。その後、各自に自己紹介をしてもらいますが、司会者が出したお題に沿って（例「最近良かったできごと」）、2分以内で行います。
- ④**タイムキーパー（時間調整役）**は、各報告について 20、40、70 分の時点で時間を確認し、報告者に知らせてください。グループで時間配分に沿って取り組めるよう、司会者、報告者は配慮してください。
- ⑤最後に、**書記（レポート作成者）**が今日の主題を整理し、自らの気づきや深まりを述べて、まとめとします。

（文責）大脇 康弘